2026

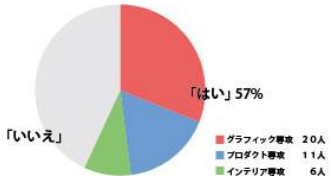
シルクスクリーン印刷による質感

Different Textures Through Silk-Screen Printing

AD31　藤谷　力澄
指導教員　氏家　和彦，李　盛姫

1. 研究目的

私は課題制作の際に、主に印刷の過程において、アイデアとそれを実現するための技術との間のギャップによって、実現が難しいために断念してしまうことが何度もあった。他にも同じように感じている学生がいるのではと考え、課題制作にプリンタを多く使うであろう本校の3～4年生のデザイン学科生65人を対象に「これまでプリンタで表現出来ないためにアイデアを諦めたことがあるか」というアンケート調査を実施した。結果(抜粋)は以下の通りである。



そこで本研究では、それらのプリンタでは出来ない表現を学生でも容易に行う方法について研究することを目的とする。

2. 印刷方法

さらに2～4年生に対象を広げアンケートを実施した結果、断念した表現として多く挙げられたのは以下の3つである。

(1) 白や特色の印刷
(2) 立体感のある表現
(3) 紙にコーティングをするような表現

これらの印刷を行うのに適した印刷方法として、本校のデザイン学科2年生全員が経験するシルクスクリーン印刷を取り上げた。また制作するビジュアルはグラフィック領域の中だけで絞り、プリンタでは表現しきれない部分を補いシルクスクリーン印刷としての良さを引き出せるような表現を試みる。

3．アプローチ

各作品に共通して「質感」というテーマを設け、印刷媒体としての質感だけでなく、グラフィック表現としての質感、印刷に用いる画材としての質感にフォーカスを当て制作を行う。今回は「視覚的質感」「触覚的質感」「異素材による質感」というカテゴリに分けて合計9枚を制作した。「視覚的質感」ではそれぞれ視覚的に感じられるモチーフの質感表現を3点制作し、「触覚的質感」では厚盛りや媒体の質感を活かしたグラフィックを制作した。これらの印刷にはTシャツくん専用インクを用いたが、「異素材による質感」では、本来シルクスクリーン印刷に使うものではない素材で刷ることで生じる質感について実験的な制作を行った。

4. 完成図

左から、「視覚的質感」「触覚的質感(2点)」「異素材による質感」

やわらかさの表現　厚盛りによる表現　プリンタとの複合による表現　UV硬化樹脂による表現

5. 結果

制作したポスターを学生に見せ、自分でもシルクスクリーン印刷でやってみたいかと調査を実施した結果、多くの学生から実際に自分の作品でも使いたいなどの意見を頂くことが出来た。また3年生の学生からは白インクを自身が制作していた絵本の課題に使いたいとの意見を頂き、その後彼女は実際にシルクスクリーン印刷とプリンタ出力との複合によって絵本の制作を行った。これらの事から、作品を通して学生の表現の幅を広げることが出来たといえるのではないだろうか。

6. 結論

これまで学生にとって表現が難しく敬遠しがちな特殊印刷であったが、本研究を通して学生の抱いていたその印象を少なからず変える事が出来た。しかしプリンタとの複合においての色味の調整などは検討不足であった。これらを踏まえて今後の発展としては、本研究をまとめたブックレットの制作を行う事が望まれる。それにより一層、今後学生自身が課題制作をする時に参考にしてもらえるようになることが期待出来る。

文献

[1] 大原健一郎,野口尚子,橋詰宗,“印刷・加工 DIY ブック,” pp.30-40, 10 月 2010 年(Oct.2010)